

平成26年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成26年12月25日（月曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時52分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 地域力の創造と地方の再生における外部人材の活用について
 2. 委員会協議会の開催について
 3. 分科会のついて
-

○出席議員（5名）

委員長	小西秀延君	委員長	山田和子君
委員	吉田和子君	委員	齋藤征信君
委員	本間広朗君	委員	前田博之君

○欠席委員（1名）

委員長

○職務のため出席した事務局職員

事務局長 岡村幸男君
主 幹 本間弘樹君

○委員長（小西秀延君） それでは、ただいまより総務文教常任委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（小西秀延君） 本日の調査事項ですが、所管事務調査でとっておりました博物館開館に向けた取り組みと住民自治の取り組みということで、1つ目が博物館開館に向けた取り組み視察結果と三重県の総合博物館と松浦武四郎記念館、そして伊勢神宮のおはらいまち町通り、おかげ横町の所管と、もう一つは住民自治の取り組みということでこちらも視察の結果で松坂市住民協議会と元気応援事業。そして3つ目が今後の進捗状況の調査確認をどのようにしていくかということで、皆さんと2点についてお話をしたいと思っております。

まず最初は博物館開館に向けた取り組みについて、視察の結果皆さんレポートを出してくれている方と私もまた整理がついていないので出してはいませんが、この場で意見をお持ちの方があればある程度出していただき、進め方として松浦武四郎とおかげ横町もあるのですが、所管の担当課とも白老の事情と照らし合わせてやったほうがいいのか、考え方も含めて皆さんからご意見を賜りたいと思います。感想だけでもよろしいですし、まず博物館からやりますか。まず①の三重県新総合博物館から、皆さんからご意見を賜りたいと思います。

私の感じた率直な三重県立の博物館ということで、県民により近い博物館づくりをしようという取り組みが見られたところかなというふうに思いました。県民にお願いしてつくっていただいた作品も展示されて、それをまた県民が県民に見てもらおうというような県民中心の、県民の教育に役立つ中心的な役割を果たす博物館的な要素が強いのかなというふうに感じてみてきました。これからこの白老にできる民族共生の象徴空間ですが、国立ということなりますのでこれは広く国民に文化を広めるというような役割ということになっていきますので、目的が多少違うところがあるのかなと。ただ白老の住民が博物館づくりに役立つことがあって住民が通いやすいようなスタイルをどう構築できるのか、そういう国の考えがあるのかどうなのか、そこの辺からもちょっとお話をしないと国主導の博物館ということになっていきますので、その辺が問題にはなってくるのかなというふうに個人的には思っています。ほかにあれば皆さんからもいろんなご意見いただければと思いますが。吉田委員。

○委員（吉田和子君） 私は参加して説明して下さった館長さんは県の職員ですよ。あの方の表情、話すこと、物の考え方、それから自信を持っている。自分たちが作り上げた自分たちで考えて、本当に今そのことが問題点もあるけれども、スムーズに思うように行っているということが実感できている。県だからなのかという思いがあったということなのです。それとあそこは改修されたものなので、だから一時だめになりそうだったものを新しく知事になられた方が、このことをやるということをマニフェストに掲げてやったということのできるようになったというお話をされていましたが、すごくその一言言ったことが私の頭の中に残っているのが、まずは県民の思いを統一するのだというふうに言ったのです。私これ本当に大事なことだと。これは国立だからといって

も、やっぱり国民が民族がそれにかかわる人々が、やっぱりそこに思いが行くような建物になっていかないとだめなのだろうなと思ってひとつ聞いていたのと、それから物を見て、人を見て学ぶところにすると言ったのです。私博物館というのは将来にわたって今までの歴史を感じ、そして将来にわたってどういったことを伝えていくのかという場所だと思うので、この基本的な考え方みたいなのがこれなのかなというふうに思いながら聞いていました。

それと、局長がつくってくれた資料だと思うのですが、事業方針の基本的な考え方の中の重点的な取り組みテーマ、これは今後の博物館づくりには必要なだろうと思って見ていたのですが、個人が参加する、団体がどう参加する、運営協議会がどのようなものになる。白老も運営協議会を立ち上げて何か私自身がそうなのですが、町長中心に立ち上げてやっているのだと。何かやっているのだという感覚で外から見ている感覚があるのですが、そのようなことでもいいのかなというふうに、今回の博物館を見てそれぞれのかかわり方をきちんとしているのではないかなというふうに思って、学芸員は学芸員なりのかかわり方。そういう点から県民のどういうふうにかかわらせているのか。子供たちもどのようにかかわらせているのかということが話しの中に出てきていました。そういったものが見受けられるなというふうに感じてきました。

1番最後に大事なことは魅力的な博物館づくりということで、より多くの人が興味を持って来館しリピーターとなるような魅力的な博物館にするための取り組みを進めるのだということ。これはどんな国立であろうと何だろうと共通することだろうなというふうには思っていたのですが、私ちょっと報告書を書いたらすっかり忘れていたのですが、そういう面では子供を巻き込んだ子ども会議をやったり、みんなでつくる博物館会議だとか、モニター調査、アンケート調査とか何年前に本当にいろいろなことをやっていました。今白老もいろんなことに調査していますけれどもどこかでやっているという感覚は私の中ではぬぐえない。

県と国はこんな違うのか。では白老の議員も白老町民もみんなそのような思いでいるのではないのでしょうか。何かやらなければならぬのか、でも何をやっているのか、何をやればいいのかという感覚があるのかなと思って視察しながらは感じました。

○委員長（小西秀延君） 本間委員。

○委員（本間広朗君） 博物館の理念、テーマというのは基本的には今までの博物館の運営とはそれほど変わらないのかなと思っていたのですが、ただ今皆さんが言われたように住民と博物館のかかわりをどう持たせていくかというのが、今回いろいろ視察してみてもわかったところなのですが、やはり住民が当然そういうかかわりを持って直接博物館の運営には余りかかわれないと思うのです。どういうふうに博物館と一般の市民とかかわっていくかというところが、そこを重点に博物館のほうは運営していたのかなと思うので、いろいろな情報発信しながら、開館まではいろいろやるのですが開館した後に、どのように情報発信してどうやったら博物館を理解してもらえるかなというところをやっぱり苦労していたというか、これから多分苦労すると思うのです。だからその辺は白老のこれからの博物館とどうリンクしていくというか、どういう共通点どういうテーマがあるのかなと思いながら職員の話の聞いたり、博物館を見ながら視察していたのですが、やっ

ぱりこれから博物館を理解してもらうために、住民の人たちをどう取り込んでいくのかというのがテーマの一つだと思うので、今までの博物館とはとにかく企画展、博物館の展示それに今まで力を入れていたと思うのです。言っては悪いですけど「見に来い。」という感じで。これこれからはやはりそういうのではなく今皆さん言われたのと同じことを言うのですが、そういうふうに住民とボランティアとかそういう博物館の案内をする人とか、そういうボランティアの人たちとそれからそういう別なほうの運営するほうと一緒に博物館を運営していくという、そういう取り組みに重点を置いているのかなと。博物館を見たらそれがはっきり出ていたのかなと。そういうこれから博物館の運営。エントランスというか広くとっていますよね。いろんな企業を紹介したり、地域を紹介したりしているコーナーというかエントランスというか、すごく広くとっていたなという印象があります。まして子供たちがそういう自由に親子で来て自由に来れるというか来て遊べる施設というのもあったし、県立ですけど、これから白老も国立になるのでその辺はやっぱり国だからといって国だけに任せるのではなくて、これからやっぱり住民とどう親しんでもらえる博物館にするかというのはやっぱり三重の博物館のような感じの取り組みというのはすごく勉強になったし、今いろいろところで団体で協議会とか審議会をやっていますけど、その辺のところももっと力を入れて住民とのかかわり、何て言うか博物館の運営のほうへもある程度入っていければいいけれど、やっぱり住民とそういう博物館のかかわりをもっと強く持たせる何かそういうテーマがあれば、そちらのほうに向かっていけたらいいのかなと思います。

○委員長（小西秀延君） ほかがございますか。山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 三重の理念が「ともに考え活動し 成長する博物館」ということで、県民の皆さんとともに考え、県民の皆さんとともに活動しながら、そして成長していく博物館を目指すという理念のとおり、開設までの準備段階のうちから県民に開設を心待ちにできるような呼びかけを随分してきた経緯がありますので、うちの博物館も中の基本構想とか実施なんかというのは、国が主体的に行うといことになっておりますので、どれだけ私たちの声が届くかどうかは量りかねますけれども、私たちができることはやはり白老町民が国立博物館ができることを心待ちにできるような情報の発信の仕方ですとか、かかわり方をどのようにするかとかそういうことを町のレベルで考えていきたいというふうに感じました。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 一つは建物。県立であれだけ立派なものをつくるのかなと。では国立というところのようなものになるのだろうかと思うのです。建物が四角でその中にきちんと物を入れて展示するというだけではだめなのだろうというふうに思うのです。それは中身にかかわることなのですが。

もう一つはそれにかかわって企業、味の素が随分幅をきかせていた。あそこの地域というのはコンテナ地帯というのですか。その中でともに一緒にやっていけるようなそういうスポンサーがついていたり、応援隊がいたりするとまた違うのかなという感じはしたのです。ここでそれを望むことはできないだろうというのが1つ。

次、一つは中身の問題ですけれども、あくまでも三重県のあの博物館というのは「つくろう さがそう つなごう」というスローガンでやっているのです。過去の歴史を掘り出してそれをどういうふうにするかという生活につないでいくかというような、そういう生活にかかわるような部分というのはかなり強いのだろうなというふうに思うのですが、白老の場合はまるっきり初めからテーマがつかうわけです。人間を知るといふ。民族を知るといふ。そのこの部分から始まってなければならぬ。だからただ四角の中にもものを飾っておけばそれですむのだというものではないことは確かなのです。そういう昔の人間の生活を掘り起こしてそして今に伝える。自分たちの生活とどうかかわってくるかということがはっきりと出てくるようなそういう展示の仕方をしなければならぬのではないかというふうに思うのです。そのこの部分があのつくり方は今までの博物館のつくり方、それとまたまるっきり違うのかなという、方向性というのは今みんなが言ったように町民と結びついてやらなきゃならないと。これは基本中の基本だからそれはそのとおりのだけけれども。やっぱりその中に民族をみんなで共有するというそういう部分をどのように売り出すかというそのこの部分がやっぱりこれは博物館の中で一番大事にしなければならぬ。そうするとそれにアイヌの人たちがどのようにかかわって、みんなと共生していくかというそのこの部分あたりがはっきりと出てくるようなそういうものでありたいなど。これはどうなるのかわからないのでということを感じたということです。

○委員長（小西秀延君） 皆さんそれぞれ視察に行っておられた方は率直な感想という形でいただいています。残念ながら前田委員は同行できなかったのになかなかご意見は難しいかと思うので、続いて一通りやってからどういうふうこれをまとめていくかという話に入りたいと思いますので、松浦武四郎記念館のほうでご意見をお持ちの方はどうぞ。

進め方としましては、皆さんにレポートも出してまいりますので出している方と出していない方がいらっしゃると思いますが、皆さんの一通り目を通してこの意見も尊重し、なおかつ所管としてこれからの博物館づくり国立博物館や国立の公園の中身についても、所管とお話をきちんと持つという形であればそちらのほうも反映させてもらった報告を本会議のほうへ上げようという流れで、今のところは考えております。山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 今進め方についてなのですが、所管となると産業、企画、博物館だどこになるのですか。担当課は生活環境課ですよね。生活環境課の職員と意見交換するということですか。

○委員長（小西秀延君） アイヌ施策担当の廣畑課長とかという形になると思います。博物館のほうは。岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） 委員長と事前に相談したのは、行ってきてそれをまとめるということであれば前回と同じになるのです。それをこうでしたと報告にまとめるということであればそういうことでもいいと思うのですが、今回せっかく取った所管が開館に向けた取り組みと住民自治の取り組みと二つの項目なのですが、開館に向けてどの取り組みが必要なのだろうかということをお皆さんで考えていきたいと思いますということ当初取ったと思うのです。

そうすると行ってきて三重の博物館を見てきましたと、うちの博物館の取り組みは今後どのようになっているのかということもお聞きした上で、議会の所管としてはこういうことも大事ではないだろうかということをやはり報告の中できちんと提言していけるようなことが必要ではないかということだと思うのです。それで行って来て見てただけで報告をまとめるのではなくて、もう一度共通のみなさんのお考えをこの中である程度出していただいた上で、所管の担当課に来ていただいて今後開館に向けてどのような取り組みをしていくのでしょうかということを引きとお話を聞いた上で、で報告をまとめたらいかがでしょうかということによってこういう流れに整理しているということなのです。

それともう一つは松坂市の住民協議会聞いてきました。それから元気応援事業も取り組みの状況聞いてきました。うちはここまでのことは進んでいませんが、地域担当職員は使ってやっているということでした。そのほかにも公民館の方たちもそういう形で積極的に参加されているという流れでやっているということです。そういう中で地域の計画を自分たちでつくるのだと。それも総合計画に反映していくようなものをつくっていくのだという考え方が示されていました。その中で自分たちが特色あるまちづくりをしていくためにいろいろな事業を考えて、それを元気応援事業として提案した上で助成金をもらうというそういう仕組みになっていたと思うのですけれども、うちの今町内会はそこまで進んではいないけれども、今後そういうことが白老として必要なかどうか、もしくはそういう方向みた住民協議会的な進め方が今後まちづくりと必要になっていくのかどうかということも含めて、担当課にはお話を聞く必要があるのだろうと思うのです。

当然今地区コミュニティ計画をつくるということも言っていますし、どんな計画になるのかということはまだ具体的にはわかりませんが、そういう中では見てきた松坂市の取り組みを参考にしながら、議会、総務常任委員会としてこのようなことはどうなのだろうかということも提言していけるようなものになれば、所管事務調査としての調査結果がより具体的なものになっていくのではないかとこのように組み立てをさせてもらっていますので、そういうことで今回の所管事務調査を進めていったらどうかというお話なのです。

○委員長（小西秀延君） 3番目になっていますが、所管の担当課から説明を受けなくてもいいのではないかと今回まとめて出すだけでいいのではないかとのご意見も出るかもしれません。そのために3番目としてちゃんと話を聞いたほうがいいのではないかとか、お話をする場面も取りますので、まずは行ってきた感想を出していただいて、それであればきちとしたやっぱり担当課ともっと煮詰める話をしたほうがいいのではないかとこの流れになれば、3番目でそれを決定していくという流れで進めていきたいと思いますがよろしいですか。岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） 一応担当課のほうには今こういう流れで組み立てているのだけれども、それで担当課のほうとして、例えばこういうことで所管として説明してもらうようなことがまた出てくるとした場合どうしようかということの話はしています。「いいですよ。」ということも言っています。上はアイヌ政策推進の担当課長のほうには話していますし、下は同じく生活環境課ですけど中村課長のほうにはこういうことで今進めているけれどもどうかということの話は

事前にセットしております。

○委員長（小西秀延君） 暫時休憩します。

休憩 午前10時29分

再開 午前10時49分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

こういうところを載せてほしいっていうところだけをおっしゃっていただければと思います。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 私の今回、きょう来たのは（3）がほとんどだと思ってきたのです。

（1）と（2）に関しては、個々人がやっぱり自分が視察して自分が学んで話を聞いて現場を見て感じたことは、それぞれが書いてきちっとレポートで出してもらおうということですね。それを委員長が見て必要な部分とか、これは共通性があるなとかそういった部分をまとめていただいたほうが、もう視察に行ってきた1カ月以上もたつので頭の中ほとんど消え去っていますので、レポート出したら安心してしまって正直に言うとは全然消えてしまったのです。そのように出していますので、出していない方に出していただいて、それ日にきちんとして委員長報告としてきちっと議長に提出してもらおうということで、もちろん個々のも議長に行きますけれどもまとめたものを委員会としてのまとめとして委員長が出していただく。そしてこの視察を受けた上で今度博物館の今白老町が実際に行っているものと、それから先ほども委員長がおっしゃったように、（3）について今後どういう取り組みをするのかということ議論すればいいと思うのです。だから要点だけは書いて出した人は出しているのをそれを読むのは大変でしょうけれど、2枚くらいにまとめて短くまとめたつもりなのですが、読んでいただいて最後に要点的にこういうことが必要であろうかと入れてありますのでそれを読んでいただいて、それでないと出したものをいただいて読んでみないとポイントちょっとわからないので読んでいただければと思うのです。

○委員長（小西秀延君） ほかに特にあれば、②は私の意見としては松浦武四郎記念館というところはその発進力が大変強いところだなと思いました。松浦武四郎という個人に対しての思い、それが郷土の思いなのだという思いが強いからそれが発進力になっているのだなというところはまとめの中には入れたいなと思っていました。全国津々浦々いろんなところにPRにここは歩いているのはすごくよくわかりましたし、思いも伝わってきました。「また来てください。」という気持ちも本当に強い博物館でそういうものも伝えて報告書の中では書きたいなと思っていました。

ほかになければ、これ③はちょっと所管が違うような形になりますけれどもおはらい町通り、おかげ横町で特に思ったことがあればご意見をいただきたいと思います。山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） おかげ横町は民間の力で統一されたまちづくりがなされたということで大変興味深く視察してきましたのですけれども、うちのまちも国立博物館が開設されることによって多くの観光客の方がお見えになりますので、その方たちをどのように白老町でおもてなしできるかということを見ると、食の部分であったりおみやげの部分にあって民間が力をつけなければい

けないなと感じましたので、それをどう行政がどういう方法で支援していけば成り立っていくのか考えてほしいなと思いました。例えばお店をリフォームするに当たって助成金を出すであるとか、新規の事業者に対しての補助金を出すであるとか、実際に白老に国立博物館、民族共生の象徴となる空間ができるということはわかっている方はわかっているのですが、近々というか何年かしたら白老でパン屋さんを開きたいのだという声を実際に聞いているのです。割と近隣の方でそういう意識を持って白老で何か商売できないだろうかとひそかに思っている方もいるのではないかと思います。そういう方たちを取り込むためにも、そういった行政の支援というものを早めに打ち出して、例えばニセコ町とかに行ってしまうような取り組みを割と早目にしたほうがいいのではないかなという感じは帰ってきました。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 伊勢のおはらい町通りとおかげ横丁で感じたこと、今山田副委員長がおっしゃったことももちろんそうなのですが、私は民間の発想そこにいる人がどう悩んでどう利用率をふやして、どういう町並みにするのかということが民間発想から起きたことが大きなことだと考えています。だから行政がかかわることも大事なのですが、民間が発想をして行政にどうかかわってもらうかというようなことのもので出てこない、なかなか行政が言ってまちの商店街を動かすとかそういうことにはなかなかならないのかなと思っています。それと以前に私個人的に苫小牧の方と視察について行ったときに、やっぱりそこもそうなのですが、全然名前も地名も出てこない。やっぱり高齢化でシャッター街が出てきてこの町並みをどうするかと決めたときに、後継者がいない。ここも同じです。それで店をやっている人が発想を変えて全部その土地を借地にした。そして全部そこに高齢者も安心して住める、歩いて回る車が通らないまちづくりをしたのです。町並みを全部発想転換して本当にまちが生まれ変わったのです。そうすると人通りもすごくになりましたし、それから土地が借地なので貸す人もお金が入ってくるそれで生活ができる。それから高齢者施設、介護施設も全部その中にある。だから本当にその中で、その町並みがそのように変わったことで隣のまちも影響して隣の町並みまでシャッター街がへった。それも市民の発想なのです。商店街をどうするかという自分たちが考えた発想で変えていっているのです。そこに「行政がやったらここまで来ませんでした。」とその方ははっきり言っていました。行政がかかると必ずあの法、この法があつてとかになってしまうので自分たちでこのまちをどうするか、どう商店街を活性化して行くかと考えたと言っていましたのでその発想を、そこに住んでいる事業やってる人たちがやっぱり発想の転換をしていかなければならない、知恵を出していかなければならないという今時がきているのかなというのを感じました。

このおはらい町通りもそうだと、一人の人が立ちあがったことでそれに賛同する人がふえてあの町並みができたということが感じとられました。

○委員長（小西秀延君） ほかにあれば、斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） あそこは歴史的にもお伊勢さんがあって昔からお参りに来たり人が集まってくる。その中で食べ物屋ができたたりお土産屋ができたたり自然発生的にそういうのだから、狭い場

所でお店をつくるというそういう必要性があった。それを民間の力が集まってきたのだと言われたらそのとおりです。それを維持していくために今どういうふうに力を、また発想を変えていかなければならないか。人気落ちてきて一時低迷した。やっぱり何とか盛り上げなければならないかなと思ったときに行政が手を差し伸べた。あれを見て行政がどういうふうに手を差しのべたのかというのはわからないのですが、何億円だか、何十億円だか出したというのです。どのようにやったのか私はわからないのですが、やはりそういうものがあって初めて行政の力が生きてくるということなのだろうと思うのです。それはそのとおりだと思うのです。だからといってあれをそのままお伊勢さんという中心的なものがあるところに集まってくる人たちを相手にまちをつくったというその町並みです。それをそのままここではまねできないだろうなという気はするのです。国立博物館ができた、だからそこにどんどん人が集まってきてそこにまちができるかということは、そういう発想ができるのかどうなのかわからないけれど、実際に行って見てお土産屋さんや行って楽しめるようなそういうような商店街があのようにつくられたら素晴らしいなという気は間違いなくあるのです。ということで何とかそういう方向に向かいながらも白老町としてどんな特徴のあるはまちづくりをするかということが大きな課題になるのかなとは思っています。

○委員長（小西秀延君） ここでは民間の力ということは皆さんからご意見出されていますのでそういうまとめになろうかなと。前にも行ってきた豊後高田だったか昭和の町づくりをやったまちも民間の発想で、それは商工会の一職員さんが始めたというふうに聞いていました。最初4、5件だったと。それがだんだん1店舗、2店舗と補助金にのってやっていくうちに大きなまちができた。大きな昭和のまちになっていった。やはり民間の発想というのはやっぱり今は必要なのかなという時代なのかなというふうに思っていますので、まとめの中にはそういう形でまとめていきたいと思えます。その中にはやはり斎藤委員が言われたとおり伊勢神宮との相乗効果というのもやはりそのためにできたまちという歴史がありましたから、それをどううまく守って維持して発展させていくかっていう発想から始まったことだと思いますので、そういうところはまとめさせていただきたいと思えます。

それでは（2）にはいってもよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） （2）の松坂市の住民協議会と元気応援事業こちらも大分全地域もでき上がって、応援事業も何回かやって大分完成された形になっているのかなというところで見に行っていますが、ご意見があればお伺いしたいと思います。

私がちょっと見た感想では松坂市の協議会というのは、本当に市長が力を入れているなというのがわかりました。そこに大変な予算もかかっているなど。各42地区に事務局員が必ずいてその地区の地域計画から何から、それを総合計画にも上げていくと大変な時間と経費もかけた構想で、トップダウン形式のまさに逆でボトムアップ形式、全部下から上げてきたものでまちづくりを行っているというように発想になっているのかなというのが私の率直な感想でした。その地域の自主性に任せまして設立されたらそこにお金が落ちますよという仕組みにもなっていますので、今の白老の

現状にあうのかどうなのかというのは財政的に考えた場合、同じ形式というのは非常に難しい問題が出てくるのではないのかなというのは、私は率直に感じた1面でありました。これをお金をかけずにこれだけのことというのはなかなかここまで手を広げるといのは難しいだろうなど。白老の地域協議会というのをどういうふうに基本的なものとして、また考えなければならないのかなというような将来的なものというのを、どう考えればいいのかというのは疑問に思っただけで帰ってきたのが現実でした。本間委員。

○委員（本間広朗君） ある意味うらやましいというか、それだけ予算一つの協議会で最低立ち上げたときに50万円くらいのそういう予算がどうか交付金がついて、それを運営できるというのはすごくうらやましいというか、白老もそこまでいなくても少しはそのぐらいの予算をもってやればいいのかと思いついて見ましたが、でも実際やっている人たちが僕ちょっと聞いてはいないのでわからないけれど協議会を運営するのは実際大変だろうと思います。あそこでも質問していますが、1つの団体で本当に200万円ものそういう予算を持っていて、大きい町なればそのぐらいの予算必要になってくるのかなと、それを運営する人たちが果たして本当に、自治会の中にもいろいろな団体があるのでその人たちだけで本当に運営するのは大変なのだろうと思いついて、でも前言ったようにある程度の白老も予算があればで町内会というか、各そういう地域でもいろんなLEDをどうするかといういろんな細かい、本当はそういうお金があればやりたいのだからという地域もありますよね。そういうところにある程度一定の予算があって、ただ大きなその予算になればいろんな元気交付金というのも入ってくるし、その辺との兼ね合いというか、なかなか白老にはそういう大きい企業もないので難しいのかなと思うけれど。ただやはり僕が1番思ったのは運営が大変だろうなど。皆さん高齢化になってきてもしかしたら住民協議会同士の統合もあり得るといった話もあったので、それは白老にもやっぱりこれから高齢化で地域コミュニティというのもつくっていくのだけれど、本当にその地域コミュニティがちゃんとやっつけていけるのかなというのをちょっと考えながら聞いていたのですけれど。

ただ1番やっぱりその地域の人たちが充実した生活というか、その運営を通してみんなが元気になるようなそういう運営の仕方であればいいけどそういうもちろん全然課題がないというわけではないけれど、その課題も含めてやっつけていけるような予算があればぜひ住民コミュニティも本当であれば予算をつけてそういう何か、本当にそこでできれば総合計画のような大きなものまではいかないまでも、何かそういう地域で計小さい仕事っていうのがあれば、さっき言ったようにLEDとか、交通安全対策とか、いろんなそういう予算つけてやれるような事業であつたらいいなどは個人的には思いました。

○委員長（小西秀延君） 特にありますか。なければ後ほど報告書を読ませていただいた上で、3番になります。一度私のほうでこのまとめ、まとめを担当課とやっつけてからまとめを出すかそれとも、皆さんのまとめた報告書そのまま視察の報告書として出すか、3番目でゆっくり話し合いたいと思います。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時06分

再開 午前11時17分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開したいと思います。

（3）の進捗状況の調査確認、これを先ほどの意見の中からも所管の担当課とお話したほうがいいという意見と、しなくてもいいのではないかという意見が出ておりました。まずきちんとこれを担当課と説明を一旦受けてその後どうしていくか考えていくか、それとも今までお話をした今回の視察に向けた町への報告のレポートだけとして今回はとどめて上げるか、その辺をまず整理したいと思います。

担当課の意見を聞いた上で、また視察のレポートとして上げると、報告として上げるという形もありますのでその辺も含めて皆さんからご意見をいただければと思います。山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 所管担当課と進捗状況を聞くというのは重要な大事なことだと思うので、その委員会として意見を述べるということはもっと多くの議論を重ねて委員会としてどういうふうにするかという意見を述べるとするとなると、ここの委員会だけでは意見を出しにくいとても重要な課題でありますので、今の現在の進捗状況をそれぞれの担当課から伺うということはしたほうがよろしいのではないかと思います。

○委員長（小西秀延君） 担当課から進捗状況を聞くのはやはり重要で、その後議会としての取り組みはその後どういう組織でやるかをまた考えましょうということでもよろしいですか。斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） よく理解ができないのだけれども、視察はどこかで生かしていかなければならないということははっきりしているわけだから、それを町の動きと合わせて一緒に、これは微妙に関係のあることだから、一緒にやろうが別々にしようがどちらも必要なことなのかもしれないけれど、私は視察は視察できちっとけりをつけてしまったほうがいいのだろうと思うのです。そしてそれから進んでまちの活性化の方向性が知りたいということでやるのであれば、別にその場を設けていくと。必要に応じて設けていってそしてその時に視察を生かしていくというような形をとったほうが混乱しないで済むのではないかな。何もかにも一緒にしてしまうとどういうふうにもまとめていかわからなくなってしまう可能性というのは出てくるので、まとめるものは視察は視察でまとめたほうがいいのかなと。そのほうがすっきりするのではないですか。

○委員長（小西秀延君） 担当課からの現状調査はどうですか。斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） それはその後の所管でやればいいのかと。

○委員長（小西秀延君） それは今回やらないで後でということ。吉田委員。

○委員（吉田和子君） ちょっと確認します。今回視察をしました。視察をしたということは所管事務調査ということで視察をしたということで、まちづくりのコミュニティ計画の進捗と博物館構想についての所管は今現在持っているということで考えてよいのですか。視察に行くために委員会として。だから期間は続いているのですよね。

委員長の報告として1回それを閉じるか、それとも引き続きずっとやっていくかという議論をし

ているのですか今は。

○委員長（小西秀延君） それをどうするかということです。報告は必ずしなければなりません。吉田委員。

○委員（吉田和子君） 私は先ほどもいいましたが、私は報告をきちんとしないとそこは一つの区切りでそれは視察をしたということの区切り、ただまちのづくりも違うし人口規模も違うから、今やっているいきなり所管をやっていって行くということにはならないと斎藤委員がいわれるのはそれだと思えるのですけれど、私もそう思うのです。この視察を受けて白老町議会の議員として博物館ができる、コミュニティのまちづくりもやっているという中でどうするかと考えたときに、委員会のこの資料をもらったときに、見たときに分科会の話も載っていたのです。それで私頭の中で考えたことがまずその協議会のあり方がよく十分にわからないから、所管をやって今の進捗状況してをきちんと聞くべきだろうとちょっと思ったのです。委員長報告をしたら終わってしまうということですか。それとも継続審査ということになっているから・・・。

○委員長（小西秀延君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時25分

再開 午後11時26分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。吉田委員引き続きどうぞ。

○委員（吉田和子君） 三重県の博物館を視察して1番思ったことは、学芸員の立場というのをきちっと敬意を表してそれぞれの分野で持ち分やをきちっと発揮して、生き生きとやっているという姿が感じ取れたのです。白老町も今アイヌ民族博物館には学芸員がいらっしゃいます。そういった方たちが今どんなふうを考えているのかなというふうにちょっと思ったのです。分科会で懇談するとあったときに、確か学芸員の人たちの今の思い、聞いたからどうにかできないかもしれないけれど、博物館に対する思いみたいなものがどのように考えられているのか。1番気になっているのは前に東京博物館を視察に行ったときに第三セクターが運営をやっていましたね。そのときに今いる人たちが横並びに採用されるかどうかと聞いたときにそれは何の補償もありませんと言われたのがすごく残っているわけです。それと今の学芸員も今まで苦勞して今までのアイヌ文化を伝承してきたものが、今後それを伝えていける立場をつくり上げていかなければならないというのはこちらの白老の状況なのかなと。それは国が考えることなのか、こっち側がそれを何とかしてあげるものなのか、その辺がどうなのだろうと考えたのです。

だから1回博物館の方たちと懇談する。博物館の専務理事だとか、博物館長たちのいろいろな会議に出るの国の方向性をどのようなふうにつまえているのか。それはその人たちの考えでいいと思うのだけれど、担当課の報告はいつも国はこのようになってというようなことしかないもので、進捗状況はわかるのだけれど、ではそこにいる人たちの今後の状況は私たちもわからないけど、今そういう立場で見ているいろいろなものになっているのではないかと思うのですけれど、そういう懇談する必要ないかなと。ちょっとそれは私の中では考えてきた。難しいのかもしれない。

○委員長（小西秀延君） 齋藤委員。

○委員（齋藤征信君） 何も反論するわけではないです。これからアイヌ博物館が国立博物館ができる。そのときの学芸員というのは本当に正式なきちんとした身分の保障されたそういう知識のある人が、保障されなければならないわけです。博物館が正式にできるとなればそういう人というのは雇われてくるわけです。それはどこから持ってくるかはこれは政策的に別な問題です。国のほうでそういう人がいるのか。現地でなかったらそういうものが確保できないのか、その辺はこれからの問題だろうと思うのです。学芸員に聞いても今財団の人に聞いて「必要ですが、どうですか。」と聞いてもやっぱりきちっとやらやらせてほしいというのが願いなわけでしょう。そういう人たちを、現地の人たち、直接アイヌにかかわっている人たちを全部雇っていくのだという方向で要望はどんどん上げていかなければならない。それは財団の人たちというのではなくて一緒になって国に言わなきゃならないことです。それはこれからの問題です。ですからそのことはまた別のじゃないのかなというふうに捉えていいと思うのです。できるだけ現地の人たちの意見も聞いて、現地の人たちを雇ってつくってほしいというのは基本中の基本だろうと思うのです。

○委員長（小西秀延君） ちょっと整理させてほしいのですが、学芸員に限らず今あそこで働いている職員さんというのは、私も吉田委員と視察に行ったときに1番先に思ったのですが、身分保障はどうなるかというのは、町としてはきちんとした身分保障をしてほしいという要望はずっとこれしていると思います。当然的に。

学芸員という立場になりますと、国に言わせると大学教授並みの立場の方が多いうふう聞いております。それが博物館の学芸員さんと国立の博物館で立場が折り合うのかどうなのか。これはちょっと僕たちの決定権からは、要望はずっと引き続きしていくでしょうけれども、ちょっと外れるのかなという気が少ししております。

ただ吉田委員のお話を総合すると所管とは進捗状況やるのいいということですね。それが財団の学芸員さんとか専務理事さんとか、常務さんに及ぶかどうかまではまた別として、所管と進捗状況の確認事項はすべきだということに理解していいですか。それは所管とはやらないで直接博物館とやったほうがいいということとしたほうがいいのでしょうか。前田委員どうぞ。

○委員（前田博之君） 今吉田委員とか齋藤委員のお話を聞いていると身分の保障になるけれど、皆さんどこまで情報が入っているのか僕にはわからないけど、アイヌ民族博物館は国立博物館ができたときになくなるのか、独立運営するのか、それ整理されていないのではないのか。国のほうであなた方自分で考えなさいということに独立する場合は、そこにいる人方がそのまま働く可能性があるし、引き抜かれたらどうなるかわからないけども、原点としてそこを整理して議論しないと先に人の身分の話をしたって困ると思うのだけれどその辺の認識とかをきちんとして話していかないと。だから白老町としての国立博物館としてどういうことをしなければいけないかということ整理していかないと。あると思うのです。

○委員長（小西秀延君） 齋藤委員。

○委員（齋藤征信君） 国立博物館ができるわけでしょ。今の博物館は壊してしまうわけですか。

分からないのですか。つぶして1つにしてしまうのだと思っていました。まさか二つあそこに建つわけではないのですね。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 職員の話を書くと言ったのは、先ほど前田委員とも話していたのですが、本当に博物館がどうなるのか全然わからないから、博物館としてやっていきなさいということだったら、それをまた運営していくための博物館なりのものが出てくる。でもそれ今やっている人たちは決められることではないけれど。ただ今町も活性化会議、どのように考えて進めていっているのかなと思ったのです。博物館ができることが第1で、それでそちらはそちらでどうにかなるのだろうと考えてやっているのか、それは残したいという白老町の考えなのか、その辺が全然わからないから1回所管をとって聞いてその上で。

まず所管で取って聞いて、まだ私たちが動く段階ではないのであればそのまま所管を続けてもしようがないし、ちょっと必要な具体性が出てきたときにもっとこれは強く出なければだめだとか、そういったことが、必要性が出てきたときにやるべきなのか、下手に今あまりに動いてしまって、不安を与えたり期待を持たせたりするというのもまた責任ないですよ。来年選挙でまた変わってしまうわけだから、受けたからってそれをしっかり受けとめてやって続けていけるといえるものが、私たちに何の保証もなるわけだからその辺でちょっと今の進捗状況を担当課に聞いて、その上で来年早々でもいいから聞いて、その上でどうするのかということによってやっていくよりしようがないのではないですか。今までいろいろ考えても私たちの頭の中で考えてもしようがないし、状況を聞いてその上で判断したらどうでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 皆さんと話していても身分はどうなっていくのだとか、だれも答えられる人がいないのです。前までは身分は町は要望していると。重々考えていくという方針もこれ国は出しています。ただ身分の保障は現在のところ何もないというのが現状です。そこまでは皆さんわかっていると思いますが、どう進展しているのかも私たちはそれから所管取っていませんし、確認の意味でもやはり一旦所管の担当課とはどういう進捗状況なのかという確認はとって、その上で報告で済ませるのか、委員会としての方針を出すのか、また別な組織で考えてもらうのか、まずは所管のご説明を一端聞きませんか。皆さんもわからなくて議論になってしまいますので、どこも答えられるところがない議論をしてもちょっと時間のむだになりますので。吉田委員。

○委員（吉田和子君） 全然違ったら違うと言ってください。博物館として指定される前はイオル構想でやっていましたね。そのときには特別委員会をつくっていたのです。特別委員会で行政側に「こうすれ。ああすれ。」意見を言ったのです。それでそれが通らなかつたらなぜ通らないとか、機構にもっとすれとか、財源をもっと持ってこいとか、そういう議論できたのですよね。今国がやるからと何となく見ている感じがあってわからないという感じなのですが、それはそれでしょうがないのでしょうか。何かそのように思ったのです。イオル構想も国なのです。同じく国だったのです。だけど拠点になったということでいろいろな構想をつくったり、いろいろな本を議員になってからもらいました。どんどんどんどん出して行って、提言していったというか出していったというのが

あったのです。特別委員会もみんな考えていろいろなことを言ったのですが、今それは全然無理なことではやはり向こうの方向性が決まっていなくてダメなのですかね。

○委員長（小西秀延君） これもちょっと答えるのが難しいかなと思いますが、町側も活性化推進会議をつくったということは町民みんなの意見ですよというものを持っていきたいという意味で今回つくったと思うのです。議会側もこれがそこと180度違うということにはならないのでしょうかけれども、議会としての意見もこうあります。だから国もこういうふうに考えてくださいというのは、何もないで要望しているよりは町はやりやすいのではないかなと私個人は考えますが、そのようなことはしないほうが良いよと。国が決まっていなくて動かないほうが良いという時期も確かにありました。

ただ今はもう閣議決定もされていますし、基本構想は出ましたし、基本計画がこの夏に出るということになっていますので、逆にこれ要望するなら今なのかなというふうに思っていますので、まずはやっぱり現状確認はしたほうが良いのかなというのが私率直な意見です。皆さんに聞かれても私も答えられませんので。吉田委員。

○委員（吉田和子君） 活性化委員会には議長が入っていましたか。

○委員長（小西秀延君） 議長だけ入っています。あとは個人の資格で入っている方もいます。吉田委員。

○委員（吉田和子君） 議長は何をもって言っているのだろうね。議長に聞かなければわからない。そこで議長個人の意見をいっているのか議会として何か考えたいなのをみんなから聞くというのはないといのか。そのようなことをする必要はない。

○委員長（小西秀延君） 組織はないので多分議長個人としてのご意見はおっしゃっていると思いますが。吉田委員。

○委員（吉田和子君） 議長が入っていることで議長の意見で、議会もそのように理解してその意見だというふうにするわけではないのですね。議長が議長という立場で出ているということは議会の代表ですね。

○委員長（小西秀延君） それも明確には担当課に聞いてもらったほうが。前田委員。

○委員（前田博之君） 議会運営基準か何かに記載しています。議会を代表して出席している人は原則は報告するとか何かしなければいけないとなっています。

○委員長（小西秀延君） 現段階では部会がたたき台をつくっているという段階で幹事会にまとめたものが出てきているとか、そういう段階にはないようです。

所管を取るのはまだ早いというご意見もあったのですが、どうしてもこう議論していると皆さんが理解できていないところ、把握ができていないところが多いので、一度やはり所管担当課と現状の進捗状況ということで事務調査を取らせていただいて、その後に結果をどういうふうにとめるか、もう一度皆さんと話したいと思います。それがよろしいでしょうか。

今国立博物館の話が今メインになっていましたが、地区担当職員と活動状況と地区コミュニティ計画の進捗状況もあわせて、今現状を確認するということがよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは改めて局長のほうに日程を設定していただいて、これもう年明けになると思います。1月にやりたいと思います。岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） 後半になりそうですがよろしいですか。

○委員長（小西秀延君） 1月後半予定ということで日程は担当課との調整もありますのでお任せいただいて、後ほど皆様にご報告をさせていただきます。

それでは続きまして後ろのページになります。委員会協議会の開催ということで申し込みが担当課からきております。これ子ども課からきておまして、子ども関連三法に伴いまして、案件として量の見込みと確保の方策、そして2番目が子ども子育て支援計画の概要と、もうこれこの春から変わるということで27年1月13日から15日の間をお願いをしたいということで急いでいるのでございます。保育料を決定しなければ募集にもかかわってくるということもあるのだと想像されますが申し込みがきております。こちらは受けるということによろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 日程はこの中で調整をしたいと思っていて事前に局長とも話していたのですが、13日どうでした。岡村事務局長

○事務局長（岡村幸男君） 13日は今のところ大丈夫ですが、まだ正式にはないのですが、1月議会をこの6日の日にやるのですけれども、すぐにまたこの13日か14日に聞いてほしいというふうな話も入ってきているのです。今そういうふうなお話がちょっと来ているのですが、まだはっきりしていないのですが1月議会がもしかしたら13、14日に入るといふようなこともあります。それは、例えばこの日ですらどうしてもやるということになれば、それは大体議会10時ですから終わったあとにやるとか、それは調整とれると思うのですが、ただ13、14で今山田委員がだめだということであれば、15、16日。

○委員長（小西秀延君） 15日なら皆さん大丈夫ですか。

それでは2番目の委員会協議会の開催は、1月の15日子ども課を予定しておりますと決定させていただきます。本会議の開催ではちょっとずれるかもしれませんが、今のところの予定ということで決定させていただきます。

それは3番目分科会のほうで、山田副委員長からお願いいたします。

○副委員長（山田和子君） 姉妹都市交流についてなのですが、来年度カナダからこちらにいらっしゃる年になるのです。受け入れ体制についてなのですが、健全化プランの中で姉妹都市交流の縮小というかそういうことも出てきましたので、補助金の関係等いろいろありますので一度現状について姉妹都市協会さんと現状を伺って、今後行政の支援のあり方についての方向性ですとか、人的支援がどのようにできるかとかそういうことについて議論していきたいなと思うのですがいかがでしょうか。1月後半はいかがでしょうか

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時49分

再開 午後 11 時 51 分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

1 月分科会は 26 日の午前か 28 日の午後ということで決まりましたので、本日の委員会協議会の予定は以上ですが、特に何か皆様からあればご意見を賜ります。ちょっと担当課と打ち合わせをしなければなりませんのでそれも後日にしてください。

ほかに特になければ、以上で終了と思いますがよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣言

○委員長（小西秀延君） それでは以上をもちまして、総務文教常任委員会を開会させていただきます。お疲れさまでございました。

（午前 11 時 52 分）